

福島をくり返すな！

伊方原発再稼働許さない！9・17 愛媛集会宣言

2019年12月の定期検査以来、伊方原発3号機は運転を停止している。原発が止まっても電力不足のない四国で、原発を稼働させる必要性はない。1年10ヶ月停止していた3号機は、熱量も放射線量も低減している。3号機は再稼働させずこのまま廃炉にすべきである。

東京電力福島第一原発事故から10年半。国と東京電力は、賠償責任や住宅支援の打ち切りなど、被害者をいっそう苦しめている。福島原発敷地内の汚染水海洋放出は強い反対の中、沖合まで海底トンネルを敷設して強行しようとしている。原発事故で放射性物質が一旦外部に放出されると、解決できない難題が山積することを示している。原発事故を絶対に繰り返してはならない。

今年7月、伊方原発で2017年から19年にかけて5回にわたり、重大事故の緊急対応要員が不足していたと公表された。原子力規制委員会は9月8日、「保安規定違反」と認定した。内部告発で発覚し、それがなければずっと闇の中だった。まさに、四国電力の「隠ぺい体質」だ。安全の上にも安全が要求される原子力事業者として、四国電力の適格性が問われる事態であり、責任感や緊張感を欠いた四電の姿勢に住民は怒りと不安を抱いている。こうした中、四国電力が核燃料の装填を予定し、再稼働にひた走ろうとしているのは、断じて許されない。

日本一細長い佐田岬半島の根っこにある伊方原発で重大事故が起これば、住民は「逃げられない」。複合災害では、陸路・海路ともに遮断され、天候次第では空路の避難も不可能になる。しかも、5キロ圏内の人たちから避難し、30キロ圏内の人々は屋内退避して待つという、実現の危うい想定である。仮に道路が通れても、深刻な渋滞の発生が危惧されている。放射性プルームが避難する人々を被い、住民が被曝する可能性が否定できない。

さらに、新型コロナウイルス感染症が蔓延するもとでは、原発複合災害の危険はいっそう深刻である。避難経路や避難先での感染が避けられず、避難対策は矛盾だらけの現状だ。こうした危険を取り去り、安心して暮らせるようにするためには、伊方原発3号機は廃炉に向かわせるほかない。

なくせ！伊方原発！ 燃料装填をやめよ！ 再稼働するな！

危険な伊方原発は廃炉に！ 原発ゼロ！ Yes！

2021年9月17日

福島をくり返すな！ 伊方原発再稼働許さない！ 9・17 愛媛集会 参加者一同